

そうほうもん

S O H O M O N

第17回



高田造形 (モルタル造形工房MORZO) 代表

高田英亮 たかだ えいすけ

モルタル造形、住宅、店舗エクステリア、リフォーム、増改築等

1973年 苫小牧市生まれ
1990年 苫小牧工業高校卒
1991年 日本軽金属株式会社入社、1994年退社
1998年 ヘラルドエンタープライズ株式会社 (現角川シネプレックス) 入社、2010年退社
2011年 高田造形を開業
2012年 ASC入会

〒071-1562 北海道上川郡東神楽町東2線20号125
FAX: 0453-30-4139
http://morzo.net/

モルタルは錬金術、どんなものでも造り出せる

自分の家を自分で造るのが夢だった

高田 「社名morzōはモルタルから?」
「モルタル造形」を覚えてもらえて、ブランドネームのようにしたかったので。

高田 高田さんは旭川ご出身ですか。
出身は苫小牧です。地元で会社で4年ぐらい働いた後、実はスノーボードの選手をしながらボードショップの店員をやって、25歳で映画館の映写技師に。そのつながりで

旭川のシネコンに10年近くいましたが、サラリーマン的な仕事になって魅力も薄れてきて。

高田 「それで起業しよう」と。
この家を買ったときがスタートです。もともとのづくりが好きで、若いころ古い木造のビルを解体して自分の部屋を造ったりしていました。この家の倉庫を見た瞬間に、買うって決めました。

高田 「小学生のころから工作とか好きでした?」
はい。ちよつとキテレツな

ものを作ったりしてました(笑)
「お仕事の内容について説明していただけますか。」

高田 モルタル専門の造形屋、もともとハリウッド映画のセットが発端です。今、アミューズメント施設とかデイズニードとかで日本に入ってきていて、だんだん一般家庭のガーデンや塀のリフォームとかでも、こういう技術が使われてきています。

高田 「クライアントさんはどういう方ですか。」
意外と多かったのがガーデ

ニング系、庭にちよつとしたオブジェを置きたいとか、ブロック塀にリフォームしたいとか。カタログに載ってる中ではちよつと満足できない、もうちよつとこだわりを持ちたいという方が多いです。

アイデアと工夫と人脈をフル活用

「今までぶち当たった壁とか、逆にうまくいってることはありませんか。」

高田 毎日が壁で試行錯誤の毎日ですが、アイデアと工夫と人脈をフルに活用して、同じことやってもやっぱり何十年もやってる職人さんには絶対並ばないので。幸いこのモルタル造形をまだ北海道でやってる専門の業者が一つもない。オンラインのものだったら何とかなるんじゃないかと。

高田 「こういう仕事をやってみたいと思ってる方にメッセージを。」
結構ガテン系な仕事なん

で、僕も40歳前で始めて、頑張ってもあと10年ぐらいじゃないですか、動けるのは。その間になんとか仕事を軌道に乗せて、下を育てて職人をもう少し入れていけたらなと思います。

高田 「北海道に合っているような気がしますよね。」
特に僕のやりたいのが映画のセットみたいな、例えば「ロード・オブ・ザ・リング」とか景色がそっくりなので、実物大のものが造れたら村一個造るようなものができるし、面白いなとは思いますが。植物とか自然の景観と絡んで映えるものだと思うので。

高田 「材料はどこで手に入れるんですか。」
普通より軽いモルタルを使っているんですが、映画のセットの材料をネットで調べて探し出しました。だから大手テーパーパークで使われている材料と同じなんですよ。

「今後、旭川近郊にもそういうテーパーパークができるといいですね。」



自宅は自身の造形によって映画のセットを思わせる作り。木や石のように見える内装はモルタルで作られている。